

# 新潟本社行動計画の取り組み状況について

2024年度 第4四半期進捗報告



2025年6月4日

東京電力ホールディングス株式会社

新潟本社

# 目次

1. 安全性向上の取り組み
2. 新潟本社運営体制の構築の取り組み **update**
3. 防災支援の取り組み
  - ①緊急時における避難支援体制の強化 **update**
  - ②新潟県との原子力防災に関する協力協定 **update**
4. 産業活性化の取り組み **update**
5. 地域貢献の取り組み
  - ①長岡技術科学大学との共同研究
  - ②地域行事への参加 **update**
6. 傾聴と対話の取り組み
  - ①コミュニケーションブース **update**
  - ②県民の皆さまへの説明会
  - ③発電所視察対応 **update**

## 2. 新潟本社運営体制の構築の取り組み (2/2)

### <新潟県技術委員会における柏崎刈羽原子力発電所の安全対策の確認>

以下に2025年1月～3月に開催された新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会の実績を示します

- 開催なし

- 知事への報告書提出

- 2025年2月12日に技術委員会の小原座長より花角知事に「柏崎刈羽原子力発電所の安全対策の確認」報告書の提出がなされました

## 3-1. 防災支援の取り組み：緊急時における避難支援体制の強化

- ✓ 2018年4月1日より、防災や住民の避難支援を専門に担当する社員が、柏崎市内の「まもる・そなえる・こたえる」オフィスに常駐し、平時から住民避難を支援する体制を強化しています
- ✓ 原子力災害時におけるPAZ内(発電所より概ね半径5km圏内)やUPZ内(発電所より概ね半径5km～30km圏内)の住民避難を支援するため、東京電力グループ全体で、約2,500名の支援体制(交代等を考慮)を構築しています

### 原子力災害時における避難支援体制：2025年3月時点

#### 支援内容

- 福祉車両による要配慮者搬送：福祉施設入所者（車椅子利用者）等を避難先施設等へ搬送
- 避難退域時検査場所の運営支援：車両等の汚染検査、簡易除染、安定ヨウ素剤配布補助等
- 避難経由所の運営支援：車両や住民の誘導等
- 緊急時モニタリング：緊急時モニタリングセンターに要員を派遣し、放射線の測定・分析に協力

#### 要員確保

- 新潟本部，柏崎刈羽原子力発電所等
- 本社及び基幹事業会社※  
※東京電力パワーグリッド，東京電力エナジーパートナー，東京電力リニューアブルパワー等

## 3-2. 防災支援の取り組み：新潟県との原子力防災に関する協力協定

- ✓ 当社は、新潟県原子力災害広域避難計画に基づく防護措置の実効性を高めることを目的に、2020年10月16日に新潟県と「原子力防災に関する協力協定」を締結しました
- ✓ 本協定に基づき、平時から住民避難を支援する要員や車両の確保等の協力体制を構築するとともに、新潟県が実施する原子力防災訓練への参加を通じ、協力体制等の確認・改善を継続的に実施しています

### <原子力防災に関する協力協定（協力項目）>

- （1）スクリーニング（避難退域時検査）に関する要員及び資機材の支援
- （2）社会福祉施設に入所する要配慮者の避難に関する要員及び車両の支援
- （3）放射性物質拡散予測情報の提供
- （4）訓練を通じた原子力災害時における協力体制の確認並びに訓練結果を踏まえた協力体制の検討及び見直し

### <協定に基づく具体的協力事項 一例（要配慮者の避難）>

- 協定に基づき、PAZ内施設の要配慮者を搬送可能な福祉車両31台を配備
- 平時は福祉施設等に貸出（配備）
- 緊急時は社員62名が要配慮者の避難を支援

福祉車両（避難支援車両）



要配慮者の避難支援



### <至近の新潟県・原子力防災訓練 参加実績>

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
約140名	約150名	約180名	約210名※	約170名

※国が主催する総合防災訓練として大規模に実施

避難退域時検査



要配慮者の避難支援



## 4. 産業活性化の取り組み

### 新潟工科大学との協働の取り組み

- 2025年1月9、16日に、「東京電力柏崎レジリエンスセンター 地域の防災力向上に向けた協働検討プロジェクト」に関するワークショップ(以下、「WS」)を開催しました
- WSでは、新潟工科大学生の当該プロジェクト3期生が、防災力向上に向けた具体的な実施項目を検討し、企画案を発表しました
- 2025年度は、柏崎市を中心とした地元小学校に訪問し、子供たちに防災用品を実際に使ってもらうといった防災教育の出前授業を実施します
- 地域の防災力向上に向けて、引き続き新潟工科大学と協働で取り組んでまいります

<2025年1月9日 WS参加者による自己紹介の様子>



<2025年1月16日 WSで検討した取組内容発表の様子>



## 5. 地域貢献の取り組み ②地域行事への参加

## ＜参加実績＞

地域行事	実施日	作業内容	参加者数
おぢや風船一揆（悪天候により中止）	2月22日 2月23日	気球試乗体験補助	8名
JR東日本主催 小千谷地区 サケ稚魚放流活動	2月27日	放流お手伝い	6名
千曲川（西大滝下流）水環境保全協議会主催 サケ稚魚放流学習体験会	3月4日	放流お手伝い	5名
第49回つなん雪まつり	3月8日	スカイランタン点火スタッフ	9名
中魚沼漁業協同組合主催 清津川付近 サケの稚魚放流	3月11日	放流お手伝い	3名
JR東日本主催 宮中ダム サケの稚魚放流	3月14日	放流お手伝い	5名
高浜コミュニティセンター冬囲い撤去	3月14日	雪囲い撤去補助	5名
小千谷市障がい者スポーツ普及交流事業（ユニバーサルボッチャ大会INおぢや）	3月16日	イベント補助 （各コートの記録係、用具の消毒）	4名

## 6. 傾聴と対話の取り組み ①コミュニケーションブース

- 新潟県内において2015年から「東京電力コミュニケーションブース」を開催し、皆さまからの疑問やご意見など、さまざまな「声」をお聴きしています。これまで、県内全市町村において174回開催し、38,578名にご来場いただきました
- 2024年4月からはコミュニケーションブースの開催頻度を増やし、一人でも多くの方に柏崎刈羽原子力発電所における安全性向上の取り組み状況等についてお伝えしています
- 引き続き県民の皆さまのご不安や疑問に丁寧にお答えするとともに、いただいた貴重なご意見については、今後の発電所運営に活かしてまいります

開催日	市町村	場所	来場者数	開催日	市町村	場所	来場者数
1月11～12日	十日町市	リオン・ドール十日町店	128名	3月8～9日	新潟市	イオン新潟東店	157名
1月18～19日	新潟市	DEKKY401	428名	3月8～9日	上越市	イオン上越 ショッピングセンター	503名
2月8～9日	村上市	荒川ショッピングセンター アコス	93名	3月29～30日	燕市	イオン県央店	453名
2月15～16日	長岡市	CoCoLo長岡	186名	合 計	7市町村 8会場		2,110名
2月22～23日	南魚沼市	イオン六日町店	162名				

### ■ 会場で頂いた声

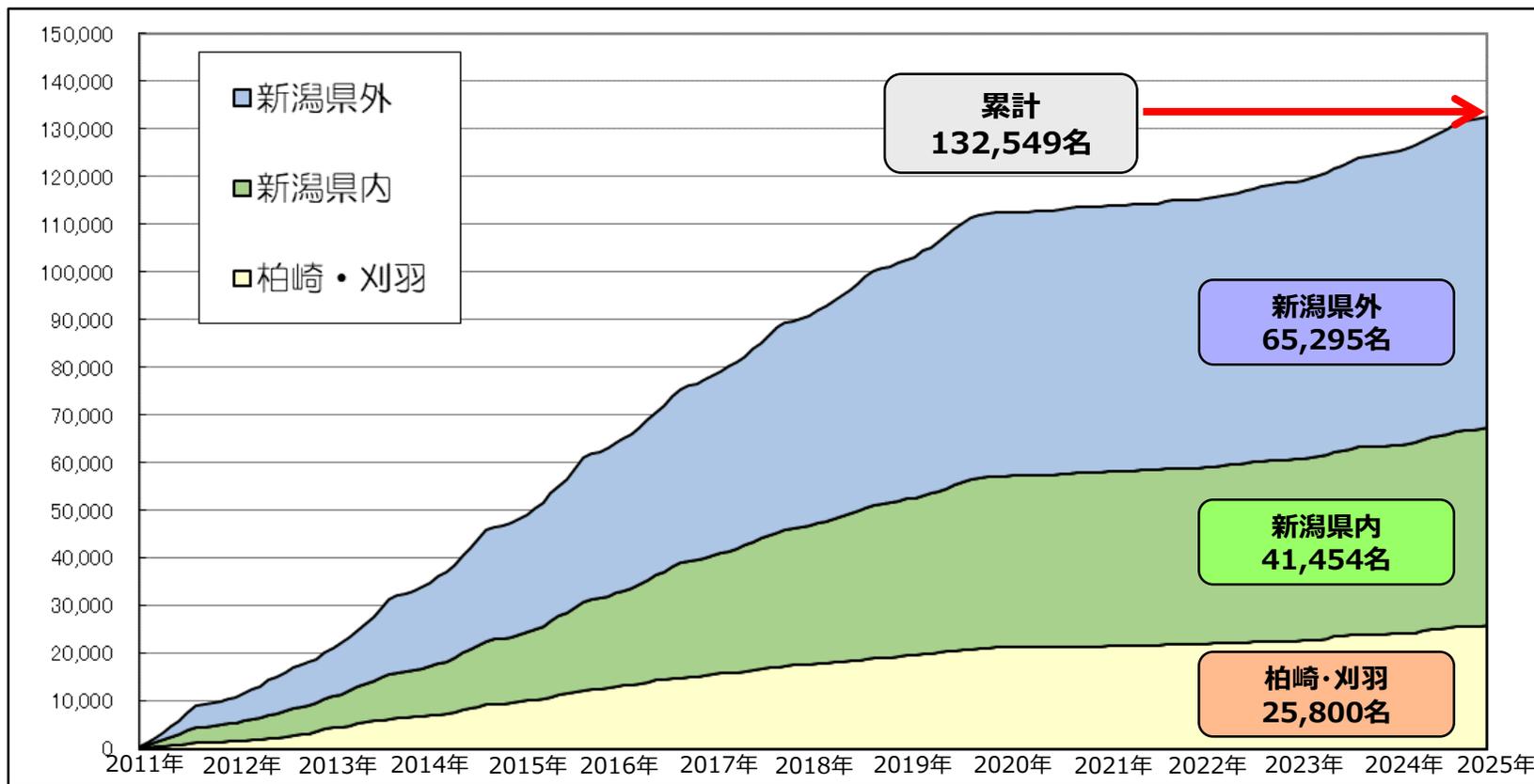
- ✓ 新聞などの報道だけでは分からなかった柏崎刈羽原子力発電所の安全対策について大変勉強になった
- ✓ 事故があってから原子力は怖いイメージだったが、今回VRを観て発電所見学をしてみたいと思った
- ✓ 日頃、放射線の話に触れる機会がないので勉強になった
- ✓ 発電所では、日頃から訓練をしていることや、初動対応要員が待機していることが分かって良かった
- ✓ コミュニケーションブースは知りたいことが知れる機会なので良いと思う
- ✓ 経済のことを考えると再稼働賛成だが、不祥事があると不安になる。簡易なミス等を新聞で見ると東電を信用できなくなる。ブースで説明を受けて少し安心した

## 6. 傾聴と対話の取り組み ③発電所視察対応

- 福島第一原子力発電所の事故をふまえ、新潟県内をはじめ多くの皆さまに、柏崎刈羽原子力発電所を視察いただきました（2011年以降の視察実績は累計で約13万2千人）
- 視察では、「安全対策に対する理解が深まった」「取組みを多くの人に伝えるべき」との声もいただいています
- 一人でも多くの方に柏崎刈羽原子力発電所を視察いただけるよう、コミュニケーションブース等の対面の場に限らず、様々な媒体でのコミュニケーション活動を通じてご案内してまいります

### 【発電所視察者数】

（2025年3月31日現在）



※発電所視察者数の過去の集計の一部に誤りがあったことから、累計及び新潟県外実績を見直しております。